

一般財団法人
飛騨高山大学連携センター

令和4年度 事業報告書

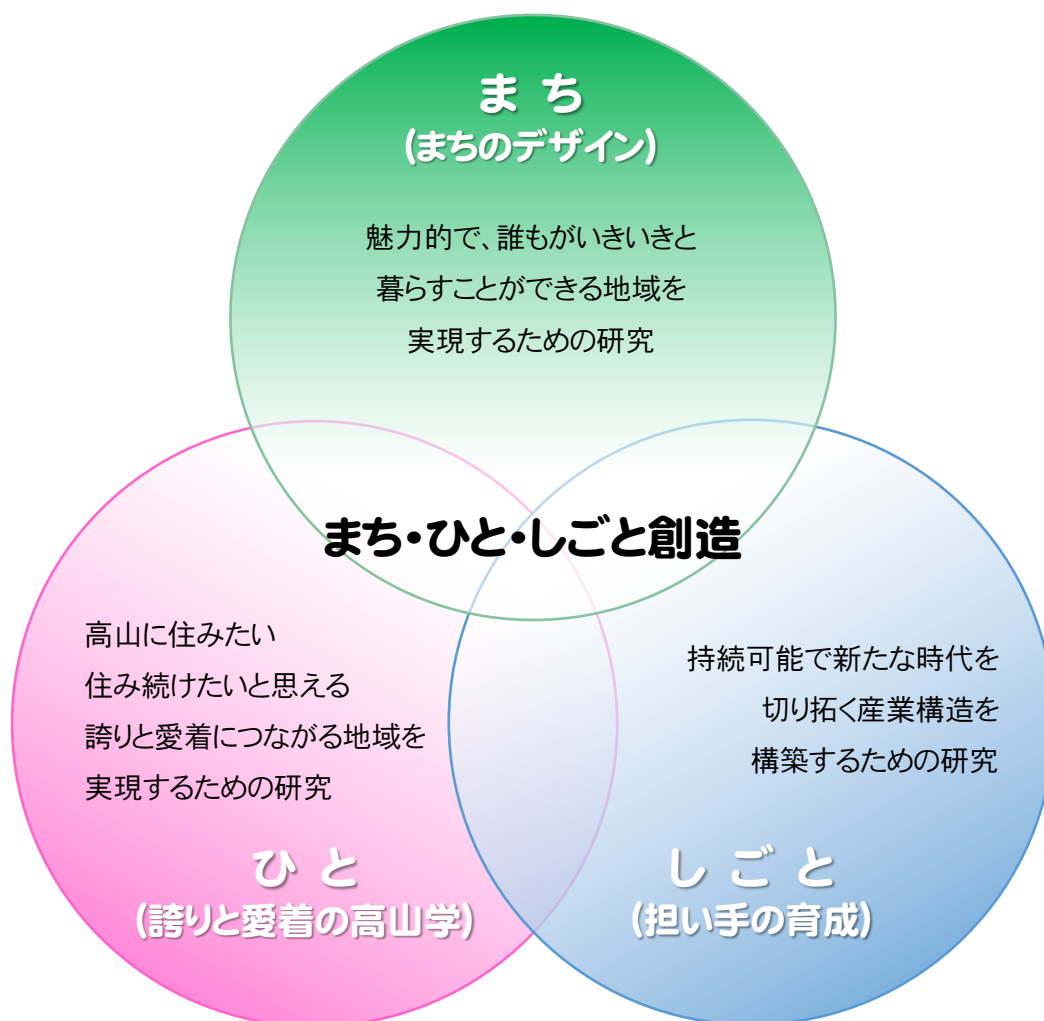
Hida-takayama
Research Center of
Regional Revitalization

大学が保有する高度で専門的な知見を活用し、高山市の「政策研究活動の充実・強化」「行政課題や地域産業、地域コミュニティ等に関する問題・課題の解決」「地方創生を担う人材の育成・確保」などの自治体シンクタンク事業に実践的に取り組んだ。

実施事業

- 持続可能な観光まちづくりに向けた取り組み
- ヘルスツーリズムの推進に向けた取り組み
- 飛騨高山ブランドの新製品開発に向けた取り組み
- 飛騨高山学会の開催
- 中部山岳国立公園の活性化の推進に向けた取り組み

調査・研究の3つの柱



持続可能な観光まちづくりに向けた取り組み

【実施形態】

高山市委託(受託)事業

【連携大学】

國學院大學 観光まちづくり学部及び地域マネジメント研究センター
(令和4年4月 観光まちづくり学部観光まちづくり学科を開設)



地域住民との意見交換会

【目的】

少子高齢化や人口減少などに伴い資源管理や地域社会の存続が危ぶまれる中山間地域では、地域の維持と次世代への継承が喫緊の課題となっている。また、観光地である高山市では、観光客の更なる回遊性の向上のほか、多様なニーズに応える魅力的な観光地づくりが大きな課題となっている。

このような課題の解決と活力あふれる持続可能な地域の実現に向けて、社会・環境・経済の三側面の調和のとれた発展による持続可能な観光まちづくりのあり方を研究するとともに、モデル地区において具体的な観光まちづくり活動を実践する。

【実施概要】

○丹生川地域関係者との打合せ

期 日:①令和4年6月1日 ②令和4年6月2日

目 的:共同研究概要や活動内容(モデル事業)において、
丹生川地域の住民が主体的に関わっていただくため

○専門家による現地調査

のべ回数:16回

のべ調査人数:教授8人回、准教授10人回

目 的:丹生川地域の地形、水系、農業、伝統文化、食文化、祭文化、信仰など専門分野の現地調査及び
地域住民へのヒアリング



現地踏査

○丹生川中学校での「にゅうかわ学」講義及び動画制作講評

講義期日:令和4年6月20日 対象:全学年(3回)

講評期日:令和4年12月16日、令和5年1月25日

講義・講評者:西村観光まちづくり学部長

○斐太高校での講義及びFRH発表会での講評

講義期日:令和4年12月16日 対象:1年生

講評期日:令和5年1月24日

講義・講評者:西村観光まちづくり学部長



丹生川中学校での講義

【成果等】

- ・2年目の調査研究にあたり、モデル地区の丹生川地域でそれぞれの専門分野での現地調査を実施。
- ・意見交換会等では、フェノロジーカレンダー(地域の自然と人の営みを表した生活季節暦)制作の提案し、地域住民と共同で制作を進めていくことを決めた。
- ・中学校の郷土学習では、中学生が将来的に地域のため自分に何ができるか考えるようになるような講義を実施した。
- ・令和5年度も継続事業として実施予定

ヘルスツーリズムの推進に向けた取り組み

【実施形態】

センター自主事業

【連携大学】

松本大学 総合経営学部観光ホスピタリティ学科

【目的】

高山市(飛騨高山)へ訪れる観光客に市街地中心部の古い町並のほか、新たな観光サービスの提供として滞在型・体験型観光を促進し、市域全体で観光消費を高めていく必要がある。

一方、新型コロナウイルス感染症を機に健康を意識する人々が増加していることから、地域固有の資源を活かしたヘルスツーリズムを構築することで、多様なニーズに応じた付加価値の高い観光サービスを提供できる可能性がある。

こうした状況を踏まえ、飛騨高山ならではの特色や強みを活かしたヘルスツーリズムを構築するため、目指すべき姿(テーマ、ブランディング、実行体制など)を導出する。

【実施概要】

○成果報告会

令和3年度調査研究について、市関係部署への成果報告会の実施

期 日:令和4年5月23日

○専門家(教授2名)による一之宮地域の現地調査及び地域住民へのヒアリング調査

期 日:令和4年11月10日(一之宮町)



成果報告会

【成果等】

- ・令和3年度に導出した飛騨高山版ヘルスツーリズムのコンセプト(飛騨高山の独特な暮らしを育んでいる個性的な10の資源を総合的に体感することにより心身の幸福感を総合的に高め、旅をきっかけに健康を意識する旅行スタイルを創造することを柱とする方向性)をもとに、地域を絞り、現地調査を実施。地域住民へのヒアリング調査では、住民から見た地域の宝や「地域を元気にしたい」などの住民の思いを伺うことができた。
- ・令和5年度も継続事業として実施予定



現地調査(位山道)



現地調査(民宿)



ヒアリング調査

飛騨高山ブランドの新製品開発に向けた取り組み

【実施形態】

センター自主事業

【連携大学】

東京都市大学 都市生活学部 都市生活学科

【目的】

高山市には日本有数の良質な木材をはじめとする様々な独自の素材を有し、それらを製品にする匠の伝統的技術も有する。都市生活者の求める製品化ニーズをアンケート調査で明らかにするとともに、シーズとニーズを融合させた都市生活者の満足度が高い飛騨高山ブランドの製品像を見出し、木材等の独自素材と伝統的技術を活用した新しい製品の像を具現化することにより、地域の活性化と持続可能なまちづくりを実現する。

【実施概要】

○ワークショップ開催

テーマ：「飛騨の匠の技を現代生活にどう活かすか」

日 時：令和5年1月21日

会 場：東京都市大学二子玉川夢キャンパス

参加者：11名

内 容：飛騨木工についての説明、実物を手に取って体感、新製品のアイデア提案など

○ヒアリング調査

ワークショップ調査の結果を受け、飛騨木工関係者へヒアリングを実施

日 時：令和5年3月1日

【成果等】

- ・ワークショップでは、飲み物カップホルダーや端材を活用した木工製品ガチャガチャ、最終的に土に戻る木製傘など、新たな視点での提案が多くされた。飛騨木工関係者とのヒアリング調査を通じ、ワークショップで提案されたものから、新たに製品化の可能性があるものを絞り込みを行った。
- ・令和5年度も継続事業として実施予定



ワークショップ(グループワーク)



ワークショップ(発表)



ヒアリング調査

飛騨高山学会の開催

【実施形態】

高山市委託(受託)事業

【目的】

『地域住民や地元小中高生が大学や大学生と繋がる』『地元企業や経営者と大学が繋がる』『飛騨高山のまちづくりと先端的な手法・提案・技術が繋がる』『大学生の情報発信により、飛騨高山が国内外の多くの人と繋がる』『大学同士、大学生同士が飛騨高山を通して繋がる』ことを目的に、高山市をはじめとした飛騨地域を共通のキャンパス(フィールド)として調査・研究活動を実践している大学や大学生、地元の高校生、そして地域住民が集い、研究成果・活動成果の報告を行う発表会を開催する。

【実施概要】

名称: ~繋がるキャンパス~ 第4回飛騨高山学会

期日: 令和4年12月10日(土) ①まちづくり分科会
12月11日(日) ②自然環境分科会

会場: 飛騨・世界生活文化センター

発表者: 23組(①12組、②11組)

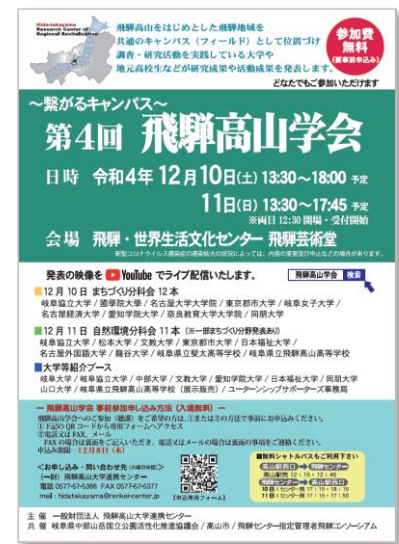
《大 学》奈良教育大学、名古屋大学2組、
名古屋経済大学2組、同朋大学、
岐阜協立大学2組、東京都市大学2組、
愛知学院大学、岐阜女子大学、國學院大學2組、
日本福祉大学、文教大学、松本大学2組、
名古屋外国語大学2組、龍谷大学

《高等学校》斐太高等学校、飛騨高山高等学校

出展等: 9大学、飛騨高山高等学校

参加者: 来場者 約400人(①約210人、②約190人)

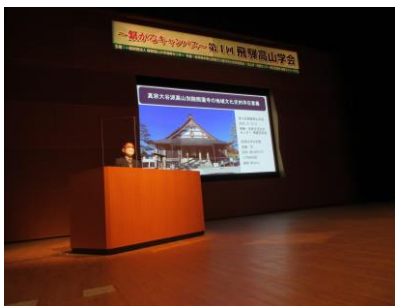
ライブ映像視聴者 約240人(①約120人、②約120人)



第4回飛騨高山学会チラシ

【成果等】

- ・来場者からは、「研究調査結果が該当地域に共有され、若い方々が登壇できるしくみが素晴らしい」、「高山の現状を知るととても良い機会になった」など、一定の評価を受けた。
- ・大学関係者からは、「高校生、大学生、大学教員、地元の方々がつながる素晴らしい場」、「普段なら聞くことのない話を興味深く聞くことで、学際的な学びができ、刺激になった」などの意見が寄せられた。



発表ステージ



来場者からの質疑応答



出展ブース

中部山岳国立公園の活性化の推進に向けた取り組み

【実施形態】

岐阜県中部山岳国立公園活性化推進協議会委託(受託)事業

【目的】

中部山岳国立公園は、雄大な山岳景観、高山植物などの貴重な自然や豊富な温泉といった豊かな自然環境に恵まれた国内屈指の山岳観光地で、多くの来訪者が訪れている。

しかし、近年は来訪者の減少が続いており、地域の活力の低下とともに、地域住民と行政の連携による自然環境や景観の保全活動が困難になることが懸念されていることから、中部山岳国立公園やその周辺地域の活性化による持続可能な地域づくりを進めることが必要である。

こうしたことから、岐阜県中部山岳国立公園の魅力を広く周知し、観光誘客や自然保護意識の醸成に繋げることを目的に、地元小学生・中学生・高校生や全国の大学生及び企業等による岐阜県中部山岳国立公園およびその周辺地域の活性化プログラムを募集するとともに、その成果発表や当該地域をフィールドに活動している大学研究者等による研究成果の報告等を行う発表会を開催する。

【実施概要】

○活性化プログラム研究の募集、活性化プログラム研究に伴う現地調査活動の支援

《応募大学・高等学校》

岐阜協立大学、文教大学
松本大学(2組)、東京都市大学
名古屋外国語大学(2組)
斐太高等学校(2組)

○大学研究者等による研究成果発表
龍谷大学



ヒアリング調査(飛騨高山コンベンション協会)



高校生によるヒアリング調査

【成果等】

- ・第4回飛騨高山学会(自然環境分科会)において、飛騨山脈をはじめとする多様な地域資源を活かした観光振興策や、若者目線でのデジタルセンターの活用方法、当該エリアでのインターンシップ制度などの様々な提案が発表された。
- ・令和5年度も継続事業として実施予定



第4回飛騨高山学会での発表



高校生が開発した新商品をブースにて販売



発表スライド抜粋

大学コミッション事業

将来的なU・I・Jターン就職や地元定着、関係人口の獲得を視野に入れ、大学が実施するフィールドワークやゼミ合宿などの様々な活動を誘致・支援し、多くの大学生が来訪・滞在・活動する高山市を目指して、大学コミッション事業に取り組んだ。

なお、コロナ禍における取り組みとして、ビデオ会議システムを活用したリモートによる講義・事前学習などを積極的に支援した。

受入実績

年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
人数	1,997人日	来訪 214人日 リモート 205人日	来訪 252人日 リモート 264人日	来訪 820人日 リモート 223人日
大学数	35大学	24大学	18大学	32大学

大学活動の支援メニュー

- ゼミ合宿等に活用できる補助制度の案内、申請手続きの支援
- 市内で実施可能なゼミ内容や行程の提案
- 調査、研究などに必要な資料提供や事前講義
- ヒアリングや取材等への協力企業や団体、地域のキーパーソンのアポイント取得代行
- サテライトキャンパス(活動拠点)の提供、斡旋、紹介
- アンケート調査等に伴う施設使用手続きの代行
- 活動成果報告会等の開催支援
- 宿泊施設や食事場所などの情報提供
- 必要物品(プロジェクター、PC、音響設備、ポケットWi-Fiなど)の貸出
- アテンド対応、その他各種相談へのワンストップ対応 など

主な受入大学

名古屋学院大学 外国語学部

【日 程】 リモート1回

【参加者数】 57人(教員1人、学生56人)

【活動概要】 ホスピタリティ演習でのゲストスピーカー講義
・飛騨高山のウイズ・アフターコロナに向けた観光戦略
・歴史と文化を大切に持続可能な観光について など

【成 果】 ・参加した学生からは、地元講師からコロナ禍の厳しい中におけるSNSや高山特有の資源を活用した誘客プロモーションの取り組みなどを聞き、飛騨高山に興味を持ち、実際に訪れたいとの感想が多くあった。
・大学側は令和5年度の継続実施を希望



多摩大学 経営情報学部
帝塚山大学 経済経営学部

5年連続9回目

- 【日 程】 ①リモート:1回
②フィールドワーク:2泊3日、成果発表(リモート):1回
- 【参加者数】 ①29人(教員等5人、学生24人)
②26人(教員等5人、学生21人)
- 【活動概要】 久々野町まちづくり協議会と連携し、地域が抱える課題などについて、若者・よそ者視点による解決方策を研究する。
・「飛騨の駄菓子について」久々野地域に工場がある榎打保屋の協力を得て、既存商品の見直しや新商品の提案をする。
①事前学習として高山市(久々野地域)及び飛騨の駄菓子の概要について講義を実施
②観光客や住民へのアンケート調査やヒアリング、地元中学生との意見交換を実施
- 【成 果】 ・アンケート調査の結果、地元中学生との意見交換の結果をもとに、成果発表会では飛騨の駄菓子を洋風アレンジすることや観光客向けの目立つパッケージ、季節感を感じられるフレーバーなど若者ならではの提案をした。



名古屋経済大学 経済学部

- 【参加者数】 20人(教員1人、学生19人)
- 【活動概要】 高山中心市街地での高齢者を中心とする食料品アクセス(買い物困難)についての調査
・高山市の概況や高山米穀協同組合の業務内容についての講義
・買い物環境のアンケート調査や店舗でのヒアリング調査、街中での潜在リスク調査の実施
- 【成 果】 ・中心市街地には、舗装状態が万全ではない場所、大きな段差や工事跡の溝が生まれており、多くの潜在的リスクが判明した。
・御用聞きサービスの供給には質量ともに労働力が重要であり、業務コストの効率化が今後の課題の1つといえる。



目白大学 人間学部

【日 程】リモート:1回

【参加者数】20人(教員1人、学生19人)

【活動概要】子育て支援に関する特別講義

・高山市の児童館と障がい児通所施設のリモート見学・講話

【成 果】・学生からは「子育て支援・保護者支援が同時に行われており、とても素晴らしい場所だと実感した」や「職員の方の話を聞いて、実際に教室の様子を見てみたいと興味を湧いた」などの感想が多くあった。

・大学側は令和5年度の継続実施を希望



東京都市大学 都市生活学部

【参加者数】5人(教員1人、学生4人)

【活動概要】高山本線の活用可能性についての研究

・高山本線の状況や要望などについて、関係者へのヒアリングと意見交換会を実施

【成 果】・高山本線への観光列車の投入ニーズが明らかになった。

・さるぼぼコインを活用したソフト的観光客支援のシナリオを提案した。



日本福祉大学 社会福祉学部

【参加者数】8人(教員1人、学生7人)

【活動概要】高齢者の見守り支援についての調査

・花里地区と高根地区のまちづくり協議会や民生委員、見守り推進員、社会福祉協議会にヒアリング調査を実施
・市街地と支所地域のヒアリングを比較し、地域差を調査分析

【成 果】・調査より、市内全体が十分に支援が行き届いていない地域もあり、顔の見える関係性ができている地域とできていない地域があることを考察した。



斐太高等学校地域活性化プログラム研究活動に対する支援

【目的】

高校生が行う地域の持つ魅力や地域が抱える課題を探究する活動を通じて、地域活性化や高校生に郷土愛やシビックプライドが醸成されるよう、探求活動に関する指導、助言、情報提供、取材の仲介などの支援を行う。

【実施概要】

- ・研究の進め方に関する全体講話
- ・大学教授による探究学習についての講義(1年生)
- ・個別相談会の開催(10回)
- ・メールによる指導、助言、情報提供、取材の仲介(随時)
- ・発表会等に参加する代表グループに対する個別指導(16回)
- ・成果発表機会の提供(2グループ)



【成果等】

- ・このプログラムの目的の一つである“地域の魅力”についての調査が多かったことから、生徒が調査の中で新しい発見を見出した意義は大きい。また、アニメのキャラクターを活用した地域活性化や廃止されたスキー場の利活用方法など、話題になっているテーマでの研究が進められ、プログラムに取り組む効果が表れている。



荘川中学校探究活動に対する支援

【目的】

荘川中学校が行う郷土学習の目的を明確にし、効果的な学習につなげるとともに、郷土への愛着や誇りが醸成されるよう、地域研究機関の強みを活かした学習支援を行う。

【実施概要】

- ・調査研究の進め方に関する講義
- ・文化祭での演技指導



大学のゼミ合宿等の活動に対する支援(ゼミ合宿等支援事業補助金)

【目的】

高山市内で行われる学生活動を促進し、交流人口や関係人口の拡大により、地域の活性化を図る。

【補助対象事業】

・飛騨地域以外に所在する大学等の団体が行うゼミ合宿等で、指導者が同行すること、高山市の宿泊施設に宿泊し、当該宿泊施設に支払う宿泊料が1人1泊あたり1,000円以上であること、延べ宿泊人数(学生及び指導者の参加人数に宿泊日数を乗じて得た数)が10人以上となることに該当するもの。

【補助金の額】

・延べ宿泊人数に1,000円を乗じて得た額とし、1団体1回あたり20万円を限度とする。

【交付実績】 15件



大学等と連携した中小企業の研究開発支援(産学金官連携促進事業補助金)

【目的】

高山市内の中小企業が行う新製品や新サービスの開発、新事業の展開及びブランド化を促進し、地域産業の活性化とブランド力の強化を図る。

【補助対象事業】

- ・1年以上継続して事業を営む市内中小企業が大学や国公立試験研究機関等と契約し、共同で実施又は異業種グループを組織して実施する新製品・新サービスに関する研究開発や製造又は生産方法に関する研究開発
- ・原則として製品の製造又はサービスの開発を高山市内で行い、製品化等が見込めるもの

【補助金の額】

- ・補助対象経費(原材料費、機械装置・工具器具費、共同研究開発費、委託費、外注加工費、技術導入費、旅費など)の2分の1以内の額で200万円を限度
- ・複数年にわたる研究開発を実施する場合の対象期間は3年間を限度とし、補助金の額は対象期間内の合計で200万円を限度

【交付実績】 なし

ウェブサイト・SNS等による情報発信・情報提供

・当センターの事業や活動状況などをウェブサイト、Facebookで広く発信

一般財団法人
飛騨高山大学連携センター

～繋がるキャンパス～飛騨高山学会

第4回 飛騨高山学会

日時	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年12月10日(土) 午後1時30分～午後6時 令和4年12月11日(日) 午後1時30分～午後5時45分
場所	飛騨・世界生活文化センター 飛騨芸術室 (岐阜県高山市千鳥町900番地1)

第4回 飛騨高山学会映像情報配信

第4回 飛騨高山学会
12月10日(土) まちづくり分科会 アーカイブ映像

日時: 令和4年12月10日(土) 13時30分開始
会場: 飛騨・世界生活文化センター 飛騨芸術室
主催: 飛騨高山大学連携センター
お問い合わせ: 0577-57-5366

第4回 飛騨高山学会
12月11日(日) 自然環境分科会 アーカイブ映像

日時: 令和4年12月11日(日) 13時30分開始
会場: 飛騨・世界生活文化センター 飛騨芸術室
主催: 飛騨高山大学連携センター
お問い合わせ: 0577-57-5366

この映像情報は、パソコンだけでなくスマートフォンやタブレット端末からご覧いただけます。
映像情報を多くの方が同時にご覧になった際に、映像が正しく表示されない場合があります。
アーカイブ映像の動画、音声及び静止画などの無断転載を禁じます。

第4回 飛騨高山学会発表スライド資料

12月10日 まちづくり分科会

岐阜県高山市におけるCOVID-19流行前・流行時の外国人観光客の変化と観光振興への影響～中興人観光産業中心に～	奈良教育大学地理学研究所
高齢者のICT利活用品選定に向けた情報相談会の検討 ～高山市デジタルなびでも相談会の実施を通して～【一報掲載】	名古屋大学大学院情報学研究科
高山市におけるデータ利活用品選定 ～協賛でのデータ活用とワークショップの開催～【一報掲載】	名古屋大学大学院情報学研究科
地元企業による食料品アクセス問題に対する取組みと課題	名古屋経済大学経済学部
高齢者の買い物行動に伴う潜在的リスクの顕在化	名古屋経済大学経済学部
高森大谷山山別荘跡地の地域文化史的価値	同朋大学文学部
廃止すべき場内施設の利用と地域振興の可能性 地域ネットワーク構築による 独自の新しい交流の交流・体験学習拠点事業の運営	岐阜県立大学経済学部
観光の飛騨エリアの交通網の活性化に対する課題 ～鉄道廃止の新たな活用による地域活性化方策について～	東京都市大学都市生活学部
飛騨高山山町史の看板文字の特徴について【非掲載】	愛知学院大学文学部
デジタルアーカイブによる新たな価値創造	岐阜女子大学文化創造学部
【共同研究】持続可能な「観光まちづくり」に関する調査研究 丹生川地区調査の中間報告～農村社会学の視点から【非掲載】	国学院大学観光まちづくり学部
【共同研究】持続可能な「観光まちづくり」に関する調査研究 丹生川地区調査の中間報告 一地域性の視点から【非掲載】	国学院大学観光まちづくり学部

一括ダウンロード (ZIPファイル 30.0MB)

12月11日 自然環境分科会

高山市における風守り・支障の無い手の現状と課題	日本福祉大学社会福祉学部
中興山山頂公園の活性化におけるマーケティングの視点～中興山山頂公園 周辺地域におけるエリアセールス及びプロモーションの選択と課題～	岐阜県立大学経営学部
中興山山頂公園エリアの活性化に資する高山本線の活用可能性の検証	東京都市大学都市生活学部
「松本高山Bio Bridge」内における観光プログラムの開発 ～自然に寄り添う体験型、松本高山エコグラウンドビルディング～	文教大学国際学部
高校生×農産物 経営改善プロジェクト	飛騨高山高等学校農業研究部
ヘルスツーリズムによる環境調和観光促進	名古屋外国語大学現代国際学部
飛騨高山市における学生インターンシップ制度	名古屋外国語大学現代国際学部
高校生×中興山山頂公園	松本高等学校2年 地域活性化プログラム研究グループ
自然保護と観光政策の両立 トイックと日本の比較について	龍谷大学法学部
農産物直売サイトリンクアップ検証～Eバイクによる、乗客の利便性～	松本大学総合経営学部
農産物におけるEバイクの活用可能性と課題	松本大学総合経営学部

一括ダウンロード (ZIPファイル 25.9MB)

ウェブサイトに学会のアーカイブや資料を掲載

一般財団法人飛騨高山大学連携センター
作成者: Michyo Okami 2022年8月10日

【国学院大学との観光まちづくりオンライン会議】

さる8月3日4日、国学院大学観光まちづくり学部の教授と丹生川地域のまちづくりや農業に携わっている役員とで、オンラインによる会議を実施しました。

1日目は、「一年を通して楽しめる多様な観光プログラム」について、丹生川まちづくり協議会の青年部長や役員さんからお話をいただきました。教員陣からは、フェノロジーカレンダー(地域の自然と人の関わりを基にした生活季節観)制作のご提案がありました。まずは地域資源の洗い出しと整理をすることが、地域の特色を理解し磨き上げに繋がります。観光や暮らしに役立てていくことができます。早速、まち協青年部を中心として、制作を検討することとなりました。

2日目はトマト農家の寺田さんから「魅かれる農業が舌を惹きつけ繋ぎとめる」と題して、農家レストランのご提案などがありました。今後の観光と農業の在り方を考えるモデルケースとなるようなレストランができるとういことです。

これから国学院大学の先生方からのご助言をいただきながら、より具体的な観光まちづくりの取り組みを進めていきます。

インサイトと広告を見る 投稿を宣伝

いいね! コメントする シェア

一般財団法人飛騨高山大学連携センターさんは大竹健登さん、他3人と一緒にです。...

作成者: Michyo Okami 1月23日

【飛騨の匠の技ワークショップ開催】

1月21日、東京都市大学都市生活学部と当センターの共催で、「飛騨の匠の技を現代生活にどう活かすか」と題したワークショップを、東京都市大学二子玉川キャンパスで開催しました。

これは、東京都市大学都市生活学部と当センターの共同研究「飛騨高山ブランドの新製品開発に向けた都市生活者ニーズの調査研究」の一環で、大学生・大学院生・社会人に飛騨木工について知ってもらい、都市生活の製品やサービスにどう活かせるかを考えることを目的としたものです。

まず初めに、当センターの穴倉センター長からの飛騨の匠や飛騨木工についてのお話を聞いていただき、その後、持参した飛騨木工品を手に取って見ていただきました。参加者の皆さんは、既に様々な木工品の生活用品があることを理解した上で、4グループに分かれて実際に自分が使ってもらいたい木工品を考え、最後に提案発表をしました。

発表の中には、「飲み物カッパホルダー」や「素材を活用した木工製品ガチャガチャ」、また「最終的に土に戻る木製傘」などSDGsに繋がるものもあり、新たな視点での提案を興味深く聞かせていただきました。さらに調査研究を深め、最終的に試作品の製作に繋げたいと考えています。

インサイトと広告を見る 投稿を宣伝

いいね! コメントする シェア

Facebookで活動状況を発信



一般財団法人 飛騨高山大学連携センター

〒506-0032 岐阜県高山市千島町900番地1
飛騨・世界生活文化センター内

TEL:0577-57-5366 FAX:0577-57-5377

<https://www.renkei-center.jp/>

facebook

<https://www.facebook.com/ht.renkeicenter/>

一般財団法人飛騨高山大学連携センター



活動状況を公開中